

農林省大官種畜牧場茨城支場長

豚の一代雑種の技術

5月11日養豚講演会より

松崎 格

1 繁殖経営の技術

1 エサ

(1) 子豚の下痢と飼料

繁殖経営では、子豚の下痢は最も重要な問題の1つです。この下痢は、とくに子豚に与える飼料と深い関係があります。最近では人工乳が出回っていますが、畜産試験場の報告によりますと、子豚の下痢は人工乳に含まれているたん白の量に左右されているようです。

子豚の下痢は、生後2週間目頃と45日前後にピークが現われます。1回目は、生後10日頃より餌付けを始めますが、その餌付けの時期、そして2回目は離乳時です。この2つの時期にどうしても下痢が多くなり、その誘因は飼料によるものと考えられます。たん白質が多すぎると、大腸菌が繁殖して下痢を起こします。またたん白の質の良否、過食によることもあります。

最近では、各メーカーとも良い人工乳を出すようになりましたが、それでも成分の差がだいぶありますから、これをよく調べて、最も適当なものを選び、下痢を起こしたらすぐ処理できるよう心懸けが大切です。

(2) 豚の体質(系統)

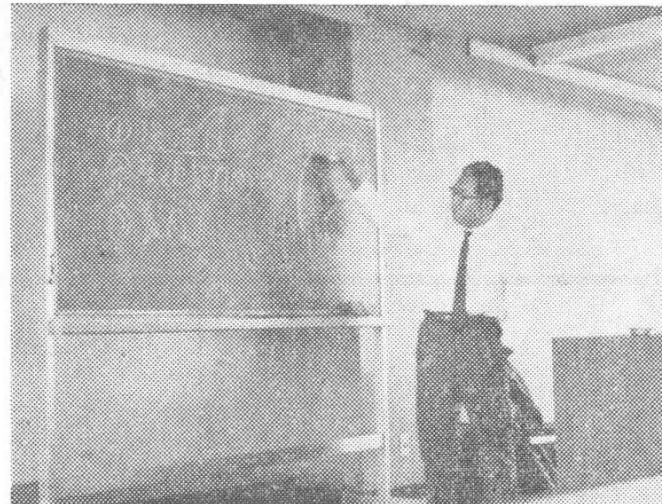
案外忘れられがちですが、系統、体質の点があります。下痢しやすい体質というものがあり、これは遺伝しますから注意して淘汰しましょう。

(3) 管理

当然のことながら、腐敗したエサをやったり、凍ったエサをやって腹を冷したりしないことです。

2 エサの嗜好性

子豚の場合でも、母豚の場合でも、エサをよろこんで食べているかどうかは大切なことです。成分内



容はまったく変わらないものでも、その嗜好性に違いがあればたいへん変わってきます。

第1表、第2表で説明しますと、資料A、Bは成分には殆んど違いはありませんが、それを給与して発育の比較をしますと第2表のとうり、嗜好性の違いによって15%もの差が現われています。

ただ、エサをやりっぱなしではいけません。喰べている状態をよく観察しなければいけません。というのは、よろこんで喰べると消化液が十分に分泌されて、消化がよくなります。普通消化率は70~80%とされていますが、嗜好性の違いによって10%前後の差はすぐ現われます。

いまかりに、飼料甲は粗たん白を16%、飼料乙は14%含有しているとします。ところが、嗜好性の違いによって、甲は消化率60%、乙は80%だったならば、ほんとうに利用された粗たん白は甲が9.6%、乙は11.2%で飼料乙のほうが有効だということになります。

たん白含量の多い、値段の高いエサを買って与えても、嗜好性が悪ければなんにもなりません。

3 母豚のツメ

牛の使役では護蹄がやかましくいわれますが、豚

第1表 飼料の成分分析 (農林省東京肥飼料検査所)

区 分	A (嗜好性悪)	B (嗜好性良)
水分	12.1%	12.2%
粗たん白	17.9	17.7
粗脂肪	3.1	3.5
可溶性無窒素物	54.3	54.2
粗繊維	5.5	5.4
粗灰分	7.1	7.6

第2表 第1表飼料による発育の比較 (〃)

区 分	A	B
調査頭数	7頭	7
調査期間 (3.6~3.20)	24日	24
開始時体重	40.16Kg	38.50
終了時体重	45.49Kg	44.49
1頭平均増体量	5.33Kg	5.99
増体率	13.55%	15.56
同上比較	100.00	114.83

に関してあまり注意されておられません。ツメのことなどいいますと、なにをいってんだといわれそうですが、これも大切なことです。

母豚が妊娠しますと、50 kg前後体重が増加します。それだけ余分の目方があの小さなツメにかかってくるわけですから、ツメが割れたり、そこから化膿したりします。

豚は他の家畜に比べて、ツメがちょっと悪くてもエサ喰いがぐんと落ちます。だから、母豚をもっておられる方は、種付け時から妊娠の前期にかけての間に、ぜひツメの手入れをしておきましょう。豚のツメは牛と違って、水にちょっとつけておくとたいへん軟らかくなりますから、少しなれると簡単に手入れができるようになります。

4 雑種子豚の生産

(1) 豚のタイプ

① 生肉用型 (ミートタイプ)

ヨークシャー、パークシャー

② 加工用型 (ベーコンタイプ)

ベーコン × ベーコン = ○

ベーコン × ミート = ○

ミート × ミート = △

ランド × ランド = ×

ランドレース、大ヨーク

③ 脂肪型 (ラードタイプ)

ポーランド・チャイナ

ラージ・ブラック

豚のタイプには以上3つのものがあります。これらを組合せて雑種F1を作出すわけですが、その組合せの良否は次のようにいわれています。

(2) 雑種強勢と雑種利用

雑種強勢とは、かけ合せた両親の優れた形質がそのF1に現われることをいいますが、現在行っているヨークXランドのかけ合せは雑種強勢ではなくて、雑種利用です。というのは、このF1は両親の中間型を現わしているからです。たしかに飼い易い豚にはなっております。

良い豚とは、強健であって(飼い易い)、繁殖能力が高く、産肉能力の優れた豚ということになります。今日、我国に入っているランドレースのなかには、悪い遺伝形質をもっているものが多々あります。つまり、玉石混合というわけです。

英国系のランドレースは強健性に欠けておりますし、アメリカ系のは強健で肉質もよいのですがやや伸びを欠いています。

(3) ランドレースF1とそのみとうし

最近の肉豚生産といえば、ランドレークとヨークシャー、パークシャーとのF1が大勢を占めるようになってきましたが、はたして有利なのであろうか、またこのF1はランド、ヨーク、パークとどんな違いがあるのか、その将来性はどうかという点についてふれてみます。

① ランドとヨーク、パークとそのF1の産肉性の比較

ランドレース、ヨークシャー、パークシャーおよびそのF1についての比較試験は、国、県の各試験場その他で行われており、まだ十分な調査の段階ではありませんが、発育、産肉性、肉質などについては第3表のようなことがいえます。

ランドレースは加工用肉豚としての特徴をもち、胴伸びがよく、後軀が充実し、ベーコンが発達し、飼料の利用性が優れていますが、生肉用としては、肉質のきめがやや荒く、淡味で、脂肪の交雑が十分ではありません。

岡山畜産便り 1965.06

一方、ヨークシャー、パークシャーは生肉用豚の特長をもっており、肉味がよく、きめもこまかく、肉色も淡紅灰色で適度の脂肪の交雑がありますが、脂肪の乗りが多いため、と殺適期をよく見分けて厚脂にならないように仕上げるのが大切です。飼料要求率はランドレースよりやや低く、また赤肉量も劣ります。

F1は殆んどランドレースとヨークシャー、パークシャーの中間の成績を示しております。強健性にすぐれ病気に抵抗力があるので飼育易く、用途も範囲が広いのですが、加工用としてはランドレースに劣り、生肉用としてもヨークシャー、パークシャーに劣っております。

第3表 ランドレース、ヨークシャーおよびF1の比較

区 分	ランドレース	ヨークシャー パークシャー	F1	
体重90Kgに達するまでの日数	185日前後	215 "	195 "	
1 Kg増体に要する飼料量	3.6Kg前後	3.7 "	3.6~3.7 "	
赤肉と脂肪の割合	赤肉に富む	普 通	やや赤肉に富む	
肉 質	やや色がうすいややきめが荒い脂肪の交雑が少い味がやや淡味	淡紅灰色でよいきめがこまかい適度の交雑がある肉味がよい	} 両品種の中間	
用 途	加 工 用	生 肉 用		両用できるがともに僅かにおちる
と体の割合	カ タ	約 32.0%	34.5	33.5
	ロースバラ	約 37.0%	36.5	36.5
	ハ ム	約 31.0%	29.0	30.0
生 体 の 体 型	胴伸びよいハムが充実、前軀がよい	普 通	中 間	
と 殺 の 適 期	90~100Kg	80 ~ 85	80 ~ 90	
強 健 性	普 通	普 通	やや病気にかかりにくい	

②経済性からみたF1の現況と問題点

現在、枝肉取り上からみた場合、赤肉量が多く脂肪の少ない豚が高価に取引されておりますので、ランドレースとF1は有利な立場にあります。そこで、素豚取引の上から見てもF1子豚の生産は有利ですし、子豚を購入する場合も、同じ発育程度のものであれば、強健性、飼料の利用性、赤肉量などの点か

らF1を購入するのが有利ですが、F1が10%以上も高値のときは、必ずしも有利とはなりません。

F1の生産で大切なことは、いかなる形質でも、雌雄ともに優秀な能力をもっている系統で交配してはじめてより優れた能力を発揮するのです。とくに種雄豚の選定は慎重に行い、産肉能力検定で優秀な成績をあげている種豚か、その系統のものを使うようにします。

なお、ヨークシャーとパークシャーのF1も強健性は増しますが、脂肪がつき易い傾向がありますから注意してください。

③F1の今後のみとおし

豚肉は大衆肉としてますます需要が増え、その用途も生肉用、加工用として広く利用されており、この傾向はさらに強まるものと考えられます。しかし、現在の豚でいわれていることは、脂肪の少ない赤肉の多い豚をということでありますが、これからは肉質、肉味が重要な問題になってまいりましょう。

F1の生産は、経済効果を高めることにあるのだから、無計画な生産は絶対に避け、産肉性のよい異品種の種豚を利用するようにします。

F1を繁殖用を使うことは、子豚の発育が不揃いになったり、産子数が減ったり、死産が出たりして不利を招くことになりかねないので、あくまでF1は肉豚として利用するのが無難です。

2肉豚と土の給与

肉豚肥育経営で注意しなければならないことは、土の給与ということです。

とくに夏場は暑さまけもあって、コンクリートの上で、長い間飼育しておりますと、10~15%の豚が

岡山畜産便り 1965.06

60～70 kgになった一番元気のよい時に、喰わず病と
いったらよろしいでしょうか、急に食欲も元気もな
くなってしまいます。こうなった豚はいくら消化薬
をやっても、ビタミンをやってもなおりません。と
ころが、この豚を運動場などの土の上に放してやる
と、80%くらいの豚は2～3日で完全になおってし
まいます。

最近の肥育養豚では、殆んど配合飼料を使用して
おります。袋をみますと、配合飼料の上に完全とい
う字がついていますが、まだその上にもう1つ不と
いう字がつきます。また完全な配合肥料を作ります
と、たいへんな値段になります。それだけ未知な部
分が多いわけでありませぬ。

豚は猪から進化したものであるだけに、いくら改
良されているにしても土とは不可分なものといえま
す。

3 岡山の豚

1 全国水準に達していない

岡山のと場を見てまいりましたので、参考になれ
ばと思ひまして岡山の肉豚の批評をさせていただきます。

一口でいいますと、岡山の肉豚はまだまだです。

なかにはいいものもありましたが、非常に不揃い
です。ヨークシャーで一般的にいえることは、胴伸
びが欠けており、腹脂肪が多く、さらにハムの充実
を欠いており、前軀が重いということです。全般に
改良が遅れております。

我々が豚をみる場合、改良の度合を重くみますが、
業者の方々は枝肉をみて、その赤肉と脂肪の割合を
みます。この割合の理想をいいますと、赤肉6、脂
肪3、骨1ですが、岡山の豚をみた感じでは、赤肉
4・2、脂肪4・8、骨1の割合だと思ひます。

2 産肉能力を高めなければ

相対的にいえることに、①仕上がり適期の見方が
悪い、②基礎豚の能力がよくない、この2点があげ
られます。ですから岡山の肉豚の殆んどがC、Dク
ラス、つまり下のクラスなのです。

もっと産肉能力を高めなければなりません、産

肉性は遺伝（父母の能力）と環境（飼養管理技術）
によって左右されます。胴伸び、ハムの割合、脂肪
の割合は60%以上の遺伝度を示しています。親豚の
能力に大きく左右されるのです。これに反して、産
子数などは殆んど遺伝とは関係なく、母豚の栄養状
態などの環境によって決ります。

だから、産肉能力をあげるためには、まず、能力
のよい基礎豚を選び、次に、飼養管理技術を磨いて、
水準をあげるのです。

これからの養豚経営は、多頭化でゆかなければなら
ないでしょうが、肉豚なら常時30～50頭、繁殖経営
では5～10頭が望まれます。というのは、今までの
1頭、2頭飼いでは、勉強したり努力しようという
意欲がわかない、つまり、経営の利潤を追究しよう
という心構えができないのです。

これからの消費機構では、大量でかつ規格の揃っ
ているものでなければなりません。中に悪いものが
少しでも混じっておれば、そのグループの豚全体を
悪くみられます。組織の上にたつて、なにごとも、
努力し、レベルアップして進めてゆかないと、今後
の発展はむづかしいでしょう。